



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第59回)



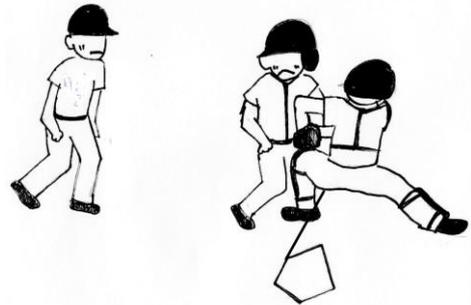
一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

ルール編 捕手の本塁上での走塁妨害

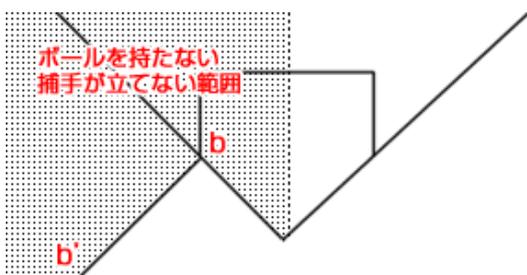
日本チームが3位に終わった国際野球大会「プレミア12」のある試合で、アナウンサーが本塁上でのクロスプレイの際、「今大会では捕手のブロックは禁止されています」と解説していました。この時期、高校の練習試合では、試合での出場が初めてとなる捕手が出場することも多いため、本塁上でのクロスプレイの後に、球審が何か指導している場面を見かけることがあります。

本塁上のいわゆる「ブロック行為の禁止」については、第3回に掲載していますが、アマチュア内規の改正（2013年）もありましたので、改めて解説します。



公認野球規則7・06(a)は走塁を妨げた場合の罰則を規定し、本項の付記には、**捕手はボールを持たないで、得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利がない**ことが明記されています。さらに、高校野球特別規則では、『**ボールを保持している時しか塁線上に位置することはできない**』と規定されています。

ここで、高校野球特別規則に定める正しい捕手の位置を下図で確認してください。



【参考】規則適用上の解釈

ボールを保持する前の捕手の立つ位置は次の通りとする。

- ① ホームベースの中央線より右側に立ち、ベースの左半分を走者に見えるようにすること。
- ② また、捕手がホームベースより後方に位置するときでも、ホームベースと三・本間のラインが重なる三塁よりの接点（左図 b点—b'）から前方には出てはいけない

また、2013年に改正されたアマチュア内規では、危険防止（ラフプレイ禁止）ルールが追記されましたので、紹介します。本塁上のプレイだけでなく、あらゆる塁にも該当する事項であることに留意してください。

アマチュア内規⑦「危険防止(ラフプレイ禁止)ルールの3 (抜粋)

捕手または野手が、明らかにボールを持たずに塁線上および塁上に位置して、走者の走路をふさいだ場合は、オブストラクションが厳格に適用される。なお、捕手または野手が、たとえボールを保持していても、故意に足を塁線上または塁上に置いたり、または脚を横倒しにするなどして塁線上または塁上に置いたりして、走者の走路をふさぐ行為は、大変危険な行為であるから禁止する。同様の行為で送球を待つことも禁止する。このような行為が繰り返されたら、その選手は試合から除かれる場合もある。